

平成 21 年度 第 2 次 新 ま ち づ くり 計 画 事 業 進 行 調 書 (そ の 1)

計画体系コード	5-2-1		事業名	子ども体力向上事業
担 当	観光文化局スポーツ部企画事業課調査担当 渡邊 211-3044			
全 体 計 画				
事業内容	子どもの体力・運動能力の低下が指摘されていることから、以下の事業を実施する。 ○ 運動プログラムの開発 公園などにおける野外運動教室のプログラム開発及び室内等における運動教室のプログラム開発を教育機関、関係団体と連携して作成する。 ○ 運動教室の実施 小学校の体育館、グラウンド、公園、公共施設などを利用し、市民が身近に参加できる場所で遊びとスポーツの要素を含んだ様々な種類の運動教室を実施する。 ○ 指導者の養成 運動教室事業の拡大を図るために、運動生理学の視点をもち、体を動かす楽しさを子どもと接しながら伝えることができる指導者の養成を行う。 ○ 保護者向けの啓発 保護者に対して、子どもの体力向上の重要性を啓発するために保護者説明会や小冊子の発行、講演会などを実施する。 ○ 学校教育との連携 学校教育との連携により子どもの体力向上を図るために、学校教員との共同勉強会や意見交換会などを行う。		<年度別の事業内容>	
			平成19年度(補助金) ・運動教室実施・レクリエーション用具購入・指導者養成プログラム修正・指導者養成・啓発用品購入 平成20年度(補助金) ・運動教室実施・レクリエーション用具購入・指導者養成・啓発用品、消耗品等購入 平成21年度(補助金) ・運動教室実施・レクリエーション用具購入・指導者養成・啓発用品、消耗品等購入 平成22年度(補助金) ・運動教室実施・レクリエーション用具購入・指導者養成・啓発用品、消耗品等購入	
事業内容・量・場・所・規模・件数等	平成 19 年度 事業 内 容 (決 算)		平成 20 年度 事業 内 容 (決 算)	
	財団法人さっぽろ健康スポーツ財団が実施した以下の事業に対し補助金を支出した。 ○ 運動プログラムの開発 遊びを中心とした室内における運動プログラムの開発を行った。 ○ 教室の実施 札幌市内2区体育館(厚別区・東区)において運動教室「げんきキッズ教室」を実施した。 ○ 指導者の養成 指導者養成カリキュラムを作成し、それに基づいて指導者の養成を行った。 ○ 保護者向けの啓発 「げんきキッズ教室」受講の保護者に対して保護者説明会を実施した。 ○ 学校教育との連携 市内小学校において体育の授業視察を行い、その後意見交換会を行った。		財団法人さっぽろ健康スポーツ財団が実施する以下の事業に対して補助金を支出した。 ○ 運動プログラムの開発 遊びを中心とした室内及び屋外における運動プログラムの開発を行った。 ○ 教室の実施 札幌市内6区体育館(厚別区・東区・中央区・北区・西区・清田区)において運動教室「げんきキッズ教室」を実施した。また、長期休業中に学校体育館において短期の運動教室を実施した。 ○ 指導者の養成 指導者養成カリキュラムに基づき、指導者の養成を行った。 ○ 保護者向けの啓発 体力向上の重要性を啓発する資料を作成し、保護者説明会を行った。 ○ 学校教育との連携 学校教員と運動教室指導員の授業参観及び意見交流を行った。	
事業内容・量・場・所・規模・件数等	平成 21 年度 事業 内 容 (予 算)		平成 22 年度 事業 内 容 (予 算)	
	財団法人さっぽろ健康スポーツ財団が実施する以下の事業に対し補助金を支出する。 ○ 運動プログラムの開発 これまで開発した運動プログラムを運動能力ごとに分類してまとめ、全教室で展開するために共通化を図る。 ○ 教室の実施 札幌市内の8区体育館(厚別区・東区・中央区・北区・西区・清田区・白石区・手稲区)において運動教室「げんきキッズ教室」を実施する。 ○ 指導者の養成 大学との連携により、学生を指導者として養成し、教室の指導に当たるような仕組みを構築する。 ○ 保護者向けの啓発 体力向上の重要性を啓発する資料を作成し、説明会を実施する。また、ホームページを活用して広く啓発を行う。 ○ 学校教育との連携 市内小学校において体育の授業視察及び意見交流を行う。			

平成 21 年 度 第 2 次 新 ま ち づ く り 計 画 事 業 進 行 調 書 (そ の 2)

計画体系コード	5-2-1		事業名	子ども体力向上事業		
達成目標の状況						
項 目	18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (実 績)	21年度末 (予 定)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)
運動教室数	モデル 2教室	10教室	28教室	70教室	100教室	全市で 100教室
指導者の養成数(累計)	5人養成中	4人	5人	35人	50人	50人
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)						
■ 市民との連携、市民参加 運動教室受講の保護者に事後アンケートを実施し、げんきキッズ教室の実施効果を検討し、今後の改善に役立てている。 ■ 企業等との連携・協働 [資金協力] (該当なし) [人材協力] 運動教室の指導及び指導者養成について関係各団体から協力を得ている。 [情報協力] 大学等の教育機関から子どもの体力向上のための情報提供を得ている。 [その他の協力] 大学等の教育機関に運動プログラムの監修及び有効性の検証について協力を得ている。 ■ 市民・企業等が参加しやすい環境づくり 関係企業・団体との連携による事業の実施に努める。						
評 価 (成 果)			課 題			
○ 運動プログラムの開発 運動教室の際に運動能力測定を行い、プログラムの実施効果を大学において分析・検証し、有効性が確認された。よって運動能力の向上に有効なプログラムの開発をすることができた。 ○ 教室の実施 平成18年度1区体育館2教室実施から、平成19年度2区体育館10教室、平成20年度は6区体育館28教室に拡大して実施することができた。 ○ 指導者の養成 指導者養成カリキュラムに基づいて指導者5名を養成することができた。 ○ 保護者向けの啓発 げんきキッズ教室受講の保護者に対して説明会を実施し、体力向上の重要性を啓発することができた。また、スポーツ部のホームページの中に「げんきキッズ教室」の項目を設け、広く啓発した。 ○ 学校教育との連携 指導者養成カリキュラムの中に「小学校授業視察」を位置付け、市内小学校において体育の授業視察を行い、その後、意見交換会を行うことができた。			○ 運動プログラムの開発 開発したプログラムを運動能力ごとに分類してまとめ、全教室で展開するために共通化を図る。 ○ 運動教室の実施 市内10区体育館に拡大して運動教室を実施する。また学校体育館などの身近な場所においても運動教室を実施する。 ○ 指導者の養成 養成の対象となる指導者を安定して確保するために、大学や専門学校などとの連携の可能性を探る。 ○ 保護者向けの啓発 保護者向けに広く体力向上の重要性を啓発するための方法(講演会、ホームページ活用等)を探る。 ○ 学校教育との連携 子どもの体力向上のために学校教員と運動教室指導員との意見交換会等を通じて、学校教育との連携について検討する。			
今 後 の 事 業 の 予 定 ・ 方 向						
子どもの体力向上を図るため、運動教室の拡大や、発達段階に合わせた運動プログラムの開発、指導者の養成を行う事業に対して補助を行ってきた。 はじめ、運動教室数の拡大を主眼に置き、指導者の養成を図ったが、質の高い指導者を短期に養成することは困難であったため、当初の計画を変更し、時間をかけて質の高い指導者を養成することにした。それに伴い教室数も1年に2区ずつ段階的に拡大することとした。このため、教室数・指導者数ともに目標を達成していないが、順調に質の高い指導者を養成しており、今後は順調に教室数も拡大できる見込みである。 今後は、運動教室の実施で培ったノウハウを活用し、子どもたちが様々なスポーツの楽しさを味わう機会を提供するような、「スポーツのある暮らし」を目指した新たな取り組みについても検討を進める。						

[21年度]